

兵庫県南あわじ市 地域計画の推進

－ 目標地図をベースにした南あわじ市の取組－

令和 7 年 7 月 30 日



南あわじ市産業建設部
農林振興課

課長 濟藤貴志

兵庫県南あわじ市の地域計画における話し合いの現状

※ 令和7年7月22日現在

	地域数	集落数	率
① 南あわじ市内集落数	-	170	-
② 実質化された人・農地プラン作成地域	13	16	9.4%
③ 地域計画作成の必要性を感じ、窓口相談等を行い、検討中の地域	12	13	7.6%
④ 地域計画作成に向けて話し合いを始めた地域	84	110	64.7%
⑤ 地域計画策定に向けてアクションを起こした地域（③+④）	96	123	72.4%
⑥ アンケート調査まで完了している地域（内数）	73	95	55.9%
⑦ 協議の場まで完了している地域（内数）	72	93	54.7%
⑧ 地域計画の策定が完了している地域（内数）	67	91	53.5%

○ 地域説明会・勉強会の開催状況（令和5年1月4日～令和7年7月22日）

説明会・研修会・勉強会の開催	開催回数	参加人数
説明会・研修会	16回	延べ571人
勉強会（地域ごとに開催）	91回	延べ509人

地域営農の姿を地域のみんなで話し合う



○地域における話し合いの内容

◆農地のことについて

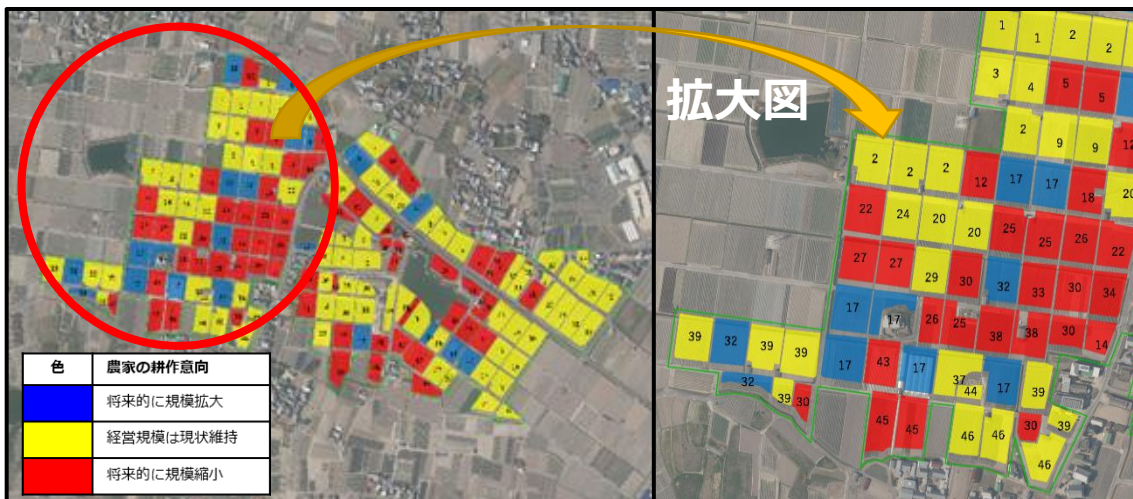
- 地域内において現在、耕作しているのは誰か？
- 農業者の今後の意向は？
- 離農を希望する農業者の農地は誰が耕作する？

◆地域営農について

- 集落営農を考える？
- 新たに農業を始める若手をどう確保するか？

◆地域の課題について

- 地域資源（ため池、水路、農道）保安全管理
- 鳥獣被害の防止など



○地域の現状を地図に反映

地域内の農地について

- ・ 現在、誰がどこを耕作しているのかを図示（耕作者番号を一筆ごとに表示）
- ・ 併せて将来の耕作意向調査結果も反映！

この図面を地域で共有して更に話し合い！

地域農業を担う団体を統合し、新たな法人を設立して当該法人に集積・集約しようとする事例

地域名： **市三條地域** (令和6年10月29日策定)
(令和7年 1月30日変更)

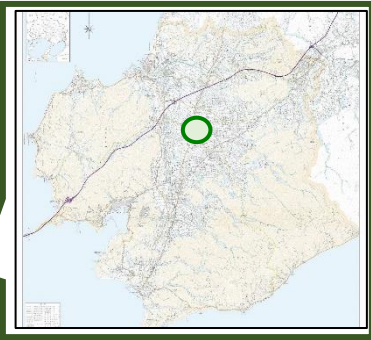
区域内の農用地等面積	28.2 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	28.2 ha
② 田の面積	28.1 ha
③ 畑の面積（果樹、茶等を含む）	0.05 ha
④ 規模縮小などの意向のある農地面積の合計	3.7 ha
⑤ 今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	6.2 ha
（参考）60歳以上の農業者の農地面積の合計	6.8 ha
うち、後継者不在の農業者の農地面積の合計	1.1 ha

担い手に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	33.3%	将来の目標とする集積率	56.2%
--------	-------	-------------	-------

地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）

属性	経営体数	備考
認定農業者	9	法人2経営体を含む
認定新規就農者	2	
法人経営者	3	
利用者	25	法人1経営体を含む
農業支援サービス事業体	3	水稻、野菜に係る作業受託



三條環境整備隊

計画内容

地域

多面的機能支払の団体、水利、農会などの地域農業を担う団体を統合し、法人（株）を設立して耕作できなくなった農地については耕作者個々に集積せず同法人へ集積・集約していく。

また、農業機械については地域でシェアリングを行い、農業コストの低減を図る。

担い手

地域主導型就農・定着応援プラン※1を活用し、就農希望者受入体制などについて情報発信をして新規就農者を含めた多様な経営体を確保する。

農業支援サービス事業体を位置づけ、地域内の農作業受託に取り組んでいく。

※1 地域の就農希望者受入体制や雇用主、地域農業の情報などをまとめた計画を様々な媒体を活用して発信するためのプラン

その他

- ・農薬の重複・過剰散布を抑制し、減農薬を進める。
- ・A Iを活用し、作業効率向上・時間短縮を図る。
- ・市場以外の販路を拡大していく中で、輸出も視野に。
- ・耕畜連携を進め、循環型農業の維持拡大に努める。

市三條地域の集積計画（現状地図と目標地図の比較）

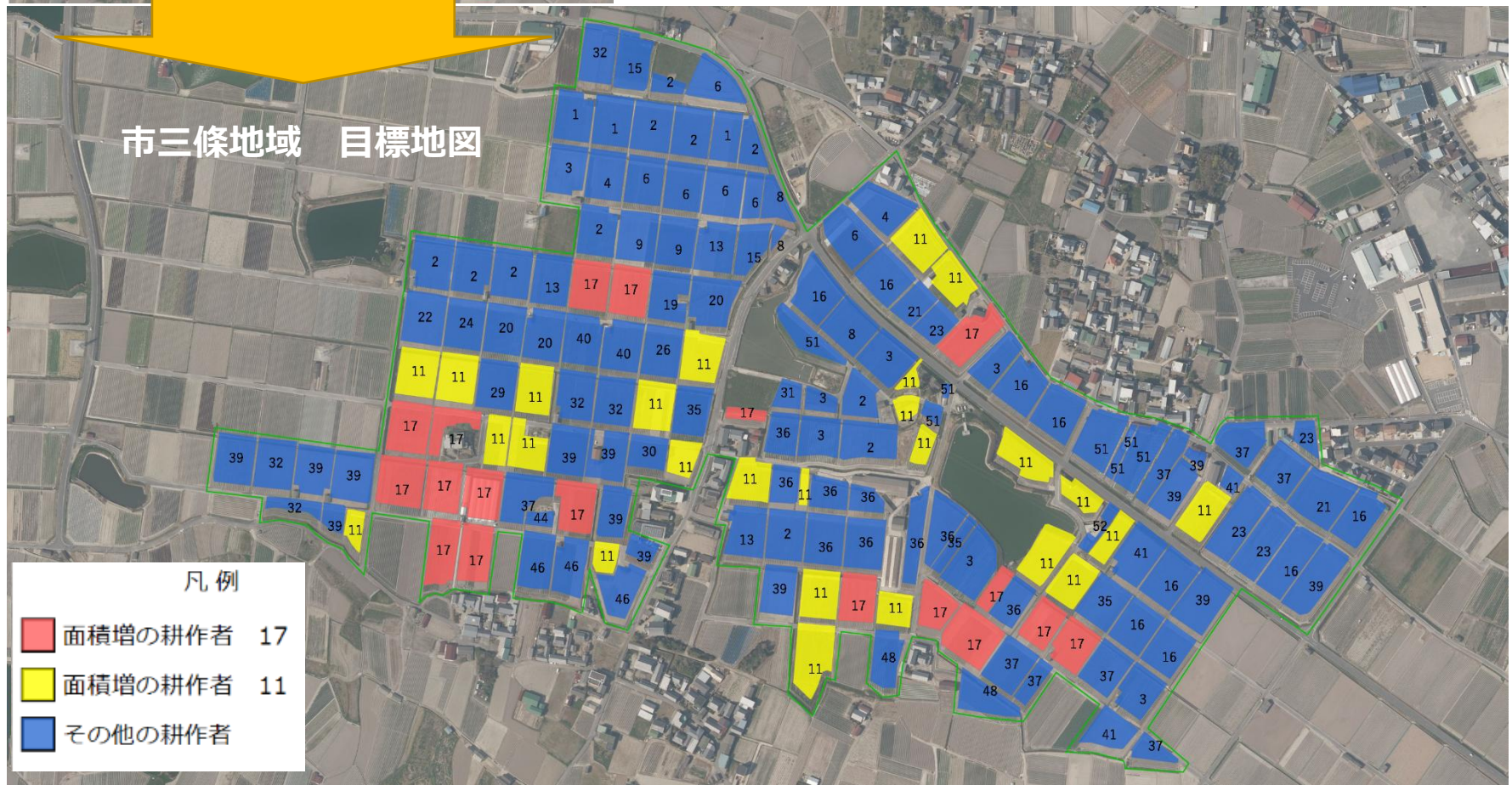


地域の話し合いにおいて、農会、水利、多面的機能など農業に関連する団体を統合して新たな法人を設立した。

今後10年間で規模縮小や離農する農家の農地については、個々には集積せずに新たに設立した法人に極力、集積・集約をしていく方針とした。

一方で設立後、間もない法人であるため、農地の集積を進めるためには地域との信頼関係を築いていくことが重要。

このため、地域の認定農業者も農地の受け皿として候補に挙げているところ。



福井野菜研究会が就農希望者に技術支援を実施し、新規就農者が耕作面積を拡大した事例

地域名：**賀集福井地域**（令和6年5月24日策定）
（令和7年5月30日変更）

区域内の農用地等面積	33.7 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	33.7 ha
② 田の面積	32.3 ha
③ 畑の面積（果樹、茶等を含む）	1.4 ha
④ 規模縮小などの意向のある農地面積の合計	5.8 ha
⑤ 今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	4.5 ha
（参考）65歳以上の農業者の農地面積の合計	19.4 ha
うち、後継者不在の農業者の農地面積の合計	7.0 ha

担い手に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	28.9%	将来の目標とする集積率	31.6%
--------	-------	-------------	-------

地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）

属性	経営体数	備考
認定農業者	9	
認定新規就農者	1	
法人経営者	0	
利用者	42	
農業支援サービス事業体	4	水稻播種・育苗、防除等



計画内容

地域

地域の農地は基盤整備が完了しており一区画20a程度の農地が形成されている。

基盤整備時に設立した営農組合は、各種農機具の貸し出しや水稻の播種を行っているが、今後はオペレーターの育成やスマート農業の導入を進める。

担い手

非農家を含めた新規就農グループ※1に対して認定農業者を含む「福井野菜研究会」が技術支援を行い、新たな担い手の確保・育成に取り組んでいる。

新規就農グループの構成員の内1名、更に非農家出身1名が令和6年に独立就農し、耕作面積を拡大した。

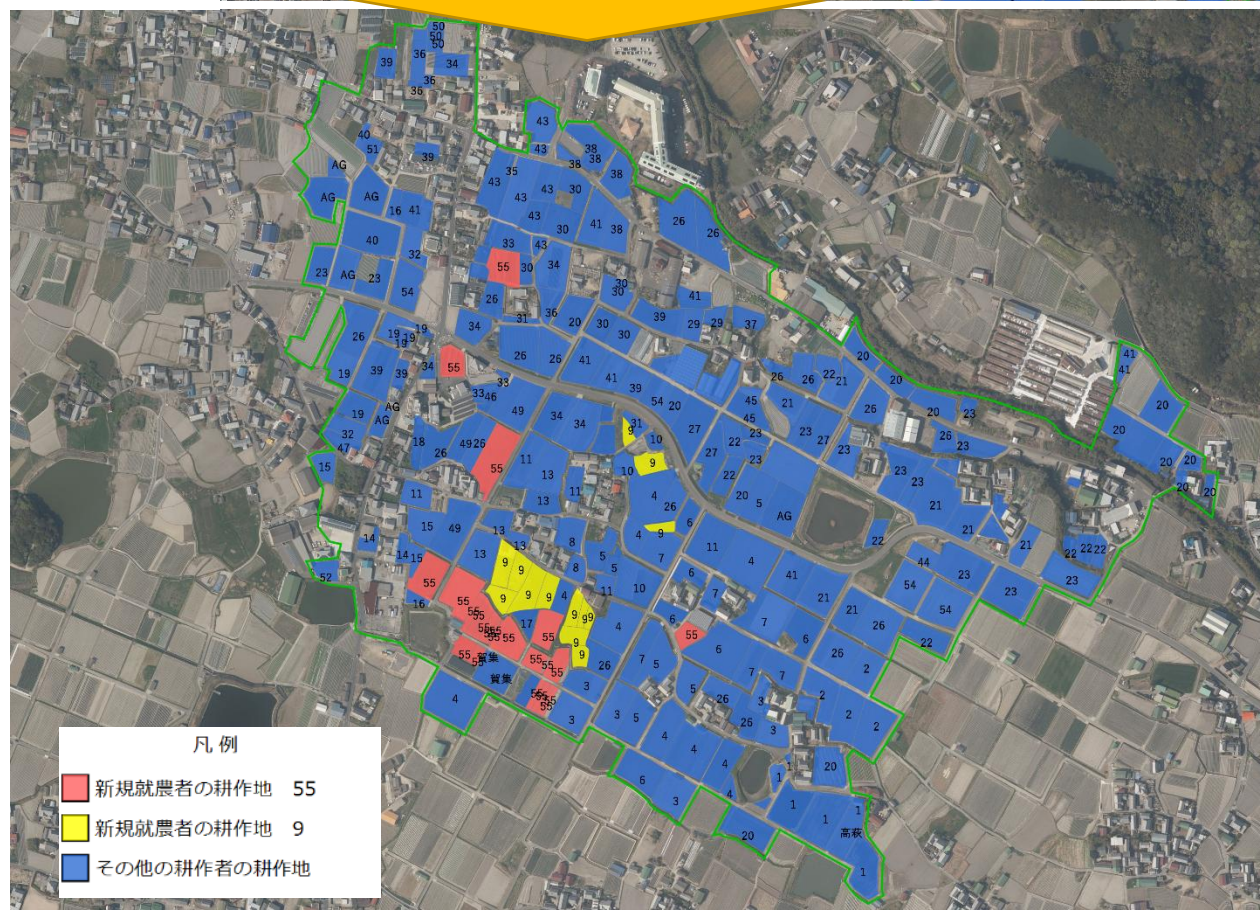
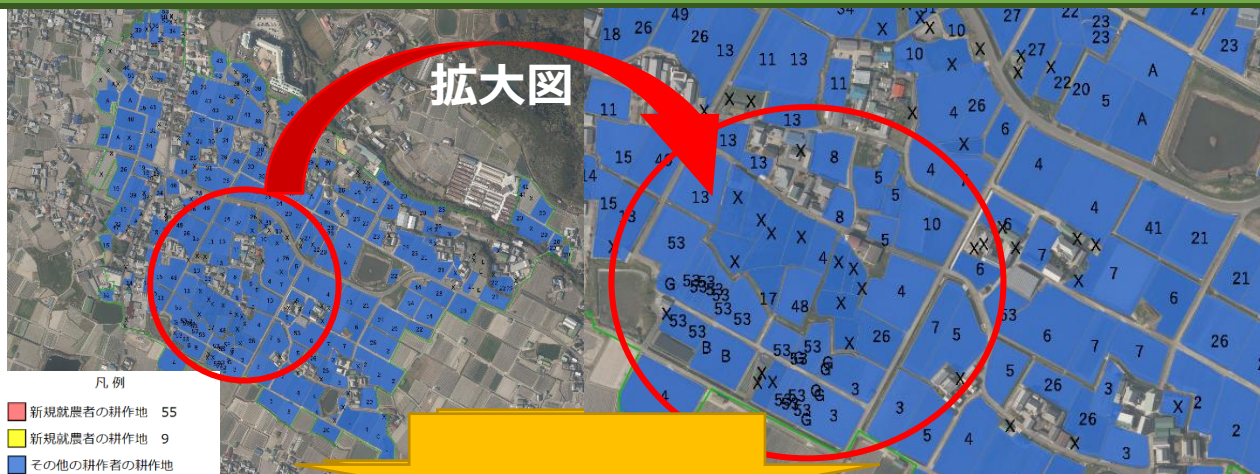
当該グループは農業支援サービス事業体としても位置付けられており育苗作業を請け負っている。

※1 非農家や兼業農家の若手等が週末などに野菜栽培について楽しく学んだり、地域の農業行事等にも参加する農業グループ

その他

WCS用稲の生産と畜産農家への飼料供給、畜産農家において生産される堆肥を地域内農地へ還元して資源循環を図るとともに化学肥料の低減にも取り組む。

賀集福井地域集積計画（現状地図と目標地図の比較）



営農組合の話し合いの中で、新たな担い手の確保・育成が重要であることから、当該地域内の非農家に声かけを行い、週末に農作業に携わって貰いながら農業に関わる者を増加させた。

農作業に携わる非農家らで構成するグループを立ち上げ、水稻における「育苗作業」を受託し、地域農業の効率化に貢献した。

当該グループでの農作業への関わりを通じて「農業への関心」が高まった農業者が複数現れたことから、地域の認定農業者らが指導者となって当該グループのメンバー他、兼業農家子弟に営農指導を実施。

結果、2名の新規就農者が誕生し、地域内においては耕作が比較的不便で借り手が決まらなかった農地について、新規就農者2名に集積することが決定した。

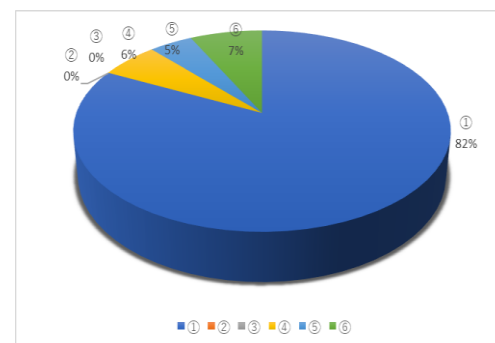
策定済み地域計画の分析

○地域計画が策定された面積とカバー率

	南あわじ市全域	市内地域計画	地域計画カバー率
農地面積	4,896ha	2,077ha	42.4%
農用地区域面積	3,944ha	1,909ha	48.4%

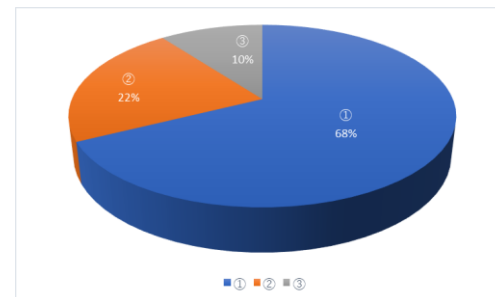
○地域計画の集積率に応じた地域の割合

現状地図から目標地図の集積率	地域数	割合
①現状集積率及び目標地図集積率が5割未満	56	82.4%
②現状集積率が5割未満で目標集積率が6割以上	0	0.0%
③現状集積率が5割以上6割未満で目標集積率が10ポイント増加	0	0.0%
④現状集積率が6割以上で目標集積率が6割以上8割未満	4	5.9%
⑤現状集積率が6割以上で目標集積率が8割以上	3	4.4%
⑥目標地図集積率が5割以上で上記のどれにも該当しない目標地図	5	7.4%



○受け手不在農地の割合

受け手不在農地の面積割合	地域数	割合
①受け手不在農地の面積割合が1割未満	46	67.6%
②受け手不在農地の面積割合が1割以上2割未満	15	22.1%
③受け手不在農地の面積割合が2割以上	7	10.3%



○将来像が明確化された地域計画数と割合

将来像が明確化された地域計画数	7	10.3%
-----------------	---	-------

策定済み地域計画の分析

○地域計画における「その他任意記載事項」の取組み

取組名	取組地域数	割合
① 鳥獣被害防止対策	52	76.4%
② 有機・減農薬・減肥料	34	50.0%
③ スマート農業	52	76.4%
④ 畑地化・輸出等	5	7.3%
⑤ 果樹等	5	7.3%
⑥ 燃料・資源作物等	1	1.4%
⑦ 保全・管理等	56	82.3%
⑧ 農業用施設	23	33.8%
⑨ 耕畜連携等	39	57.3%

- ・南あわじ市は中山間地域が多いことから鳥獣被害が拡大しているため、当該項目にチェックを入れる地域が多い。
- ・スマート農業や保全・管理等では補助事業に関連して多くなっている可能性が高いのではないかと思慮。
- ・有機、減農薬、減肥料については主に農業用機械の導入により「農薬・肥料」の使用量を減少させる計画が多い。

令和7年度の地域計画の推進

○ 地域計画を実現・発展させる取り組みを実施

◆ 地域計画策定支援事業（策定・更新に係る経費を補助）

◆ 地域農業活性化支援事業

- ・ **改善すべき耕作放棄田（遊休農地や保安全管理農地等）がどこにあるかを地域で調査し、放棄田等マップを作成**
 - 草刈りの委託や改善した農地に土壌改良剤などを投入する経費を補助する。
- ・ 放棄田の内、幹線道路沿いやまとまった農地が農産物の生産に適さない場合は景観作物定植計画マップを作成
 - 景観作物の種子購入に係る経費を補助する。

◆ 地域営農効率化支援事業

- ・ 地域計画に位置付けられた営農組合等の営農団体や土地利用型農業を担う農業支援サービス事業体への育成
 - **機械の共同化や農作業を請け負う農業支援サービス事業体へ機械導入に係る経費に対して補助を行い、共同化によるコスト低減や作業委託による労働時間の削減を図る。**

◆ みどりの技術活用による低コスト化実現事業

- ・ 化学農薬の削減に繋がる黄色防蛾灯などを区域内の「どの農地に設置するのが効果的か」を地域で話し合い、防蛾灯設置等マップを作成
 - 黄色防蛾灯の設置に係る経費（資材等）を補助する。

○ 分野別研修会等を行い、優良事例の横展開を図る。

人口減少による地域農業の担い手不足、後継者不足、労働力不足など今後更に地域の課題となる項目について、優良事例発表を実施。その後、研修会の参加者でディスカッションを行い、今後、地域でどんなことができるかを考えていただけるような機会の創出する。

スマート農業
(R7.7.30)

地域づくり
(R7.7.22)

新たな担い手の
確保・育成



○ 地域の特徴に応じた目標地図の作成

- ・ 表作と裏作で耕作者が異なる地域は表作の目標地図、裏作の目標地図の作成を促す。
- ・ 今後、増加が見込まれる作業受託について、作業受託計画を含めた目標地図の作成を検討する。

三毛作に対応した目標地図の作成を促す

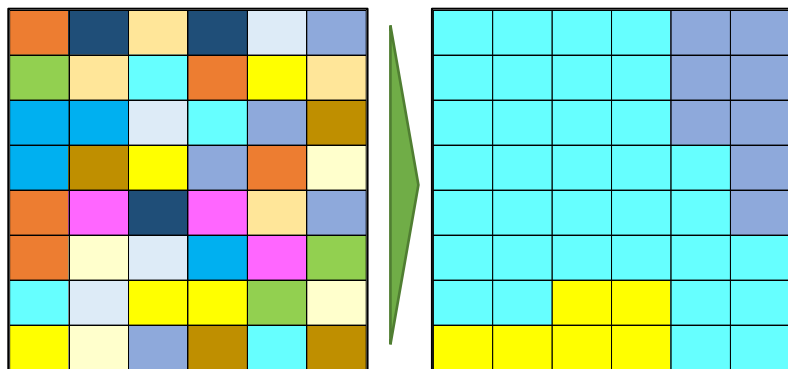
○南あわじ農業の特色

三毛作体系により左図のように同一の水田で複数作物を生産します。このため、水稻は地権者が作付けして裏作野菜は認定農業者が耕作することも多く、表作と裏作で耕作者が異なる場合があります。



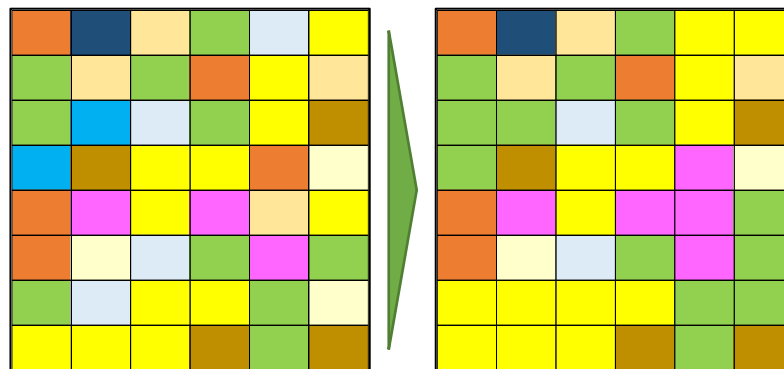
【表作の農地利用】

認定農業者や営農組合に集積・集約



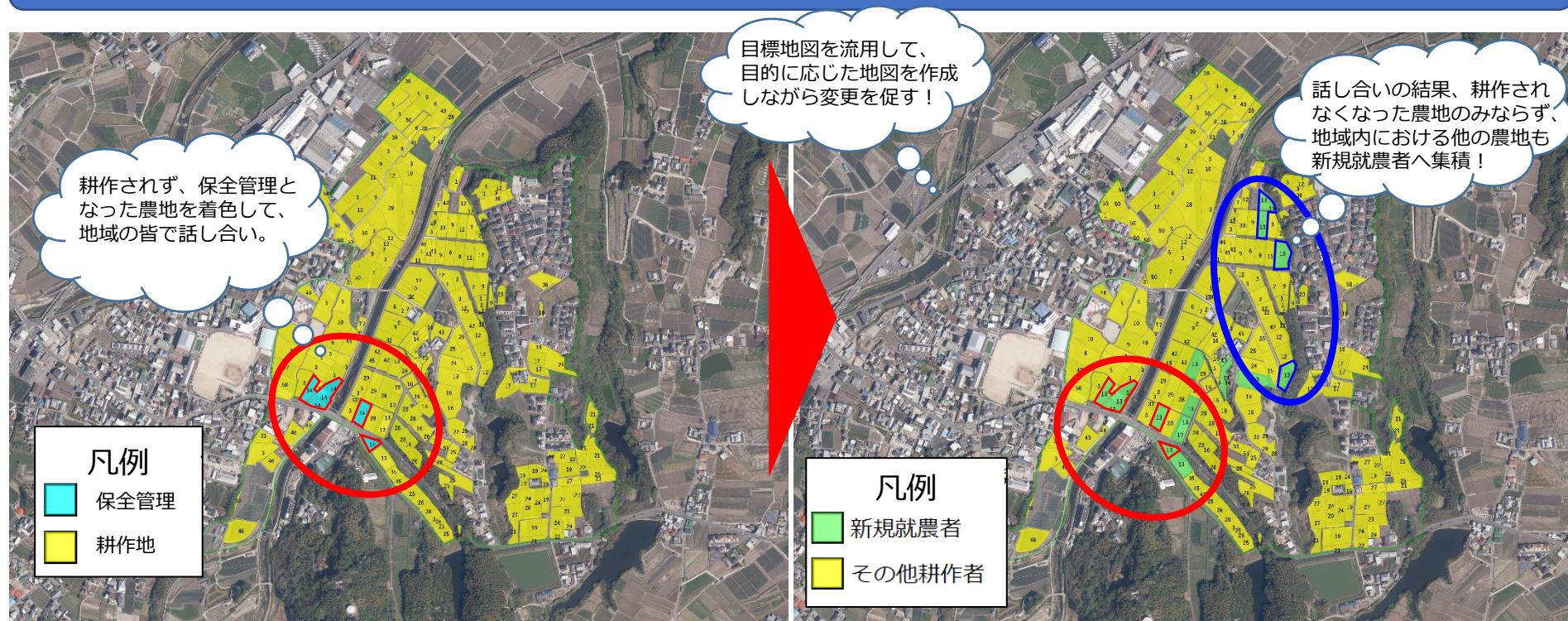
【裏作の農地利用】

露地野菜の担い手が隣接地や同じ水利区域において集積



地域農業活性化支援事業を活用した地域計画のブラッシュアップ

○耕作されなくなった農地を利活用する話し合いから集積が進んだ事例

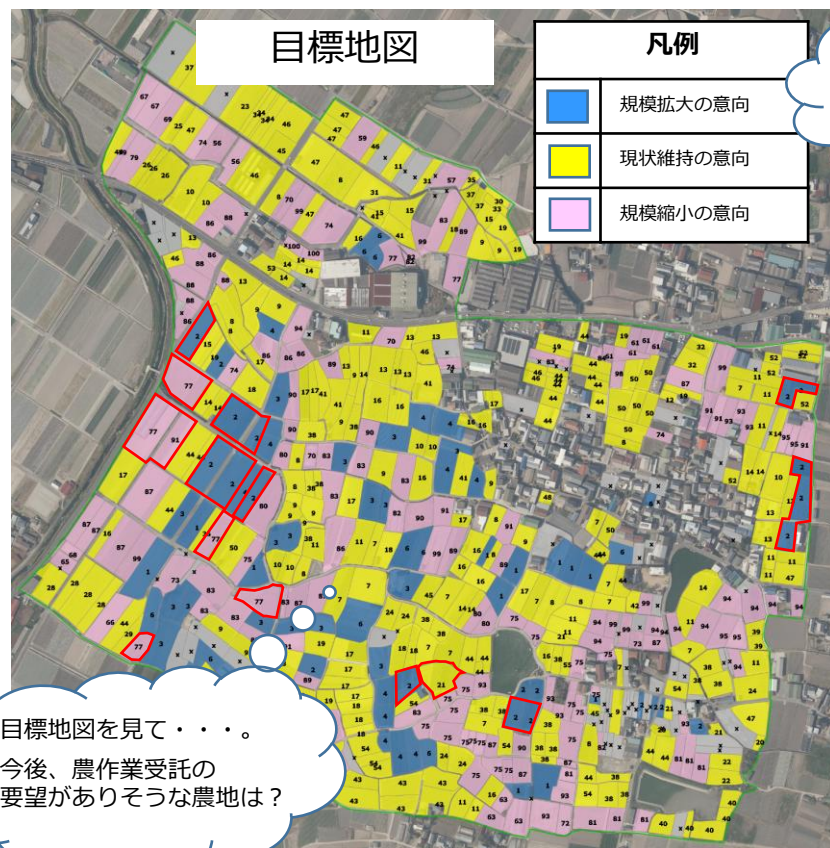


- ① 地域農業活性化支援事業を活用するため、放棄田（保安全管理）を明確化した地図を作成。
- ② 当該農地近辺で耕作する「新規就農者」が農地保全・土壌改良・野菜生産をする計画を策定。
- ③ 目標地図の更新作業をしていたところ、地域内の話し合いから新たに5筆を新規就農者へ集積する計画に！

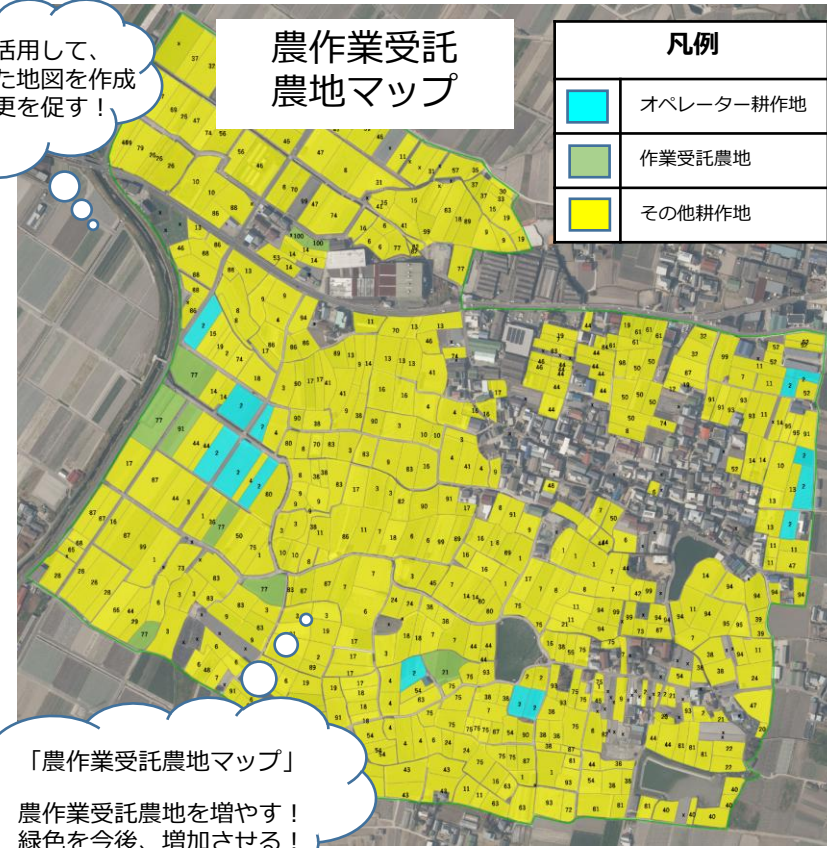
	現状集積率	将来集積率	新規就農者の耕作面積【ha】	放棄田の面積
地域計画策定時	27.6%	29.1%	0.75	0.48
保安全管理農地利活用のための話し合い後	27.6%	32.8%	1.66	0

地域営農効率化支援事業を活用した地域計画のブラッシュアップ

○市単独事業の活用により機械共同利用組合が復活し、農作業受託面積が増加した事例



目標地図を活用して、
目的に応じた地図を作成
しながら変更を促す！



- ① 数年前に設立した機械利用組合の復活について議論
- ② 市単事業を活用して「ブームスプレーヤー」の導入を計画
- ③ 秋の防除からオペレーターのほ場を中心に活用
- ④ 農作業が負担となっている規模縮小者の農地でも活用予定
- ⑤ 今後、更に活用農地を募集し、農作業受託面積の増加を検討

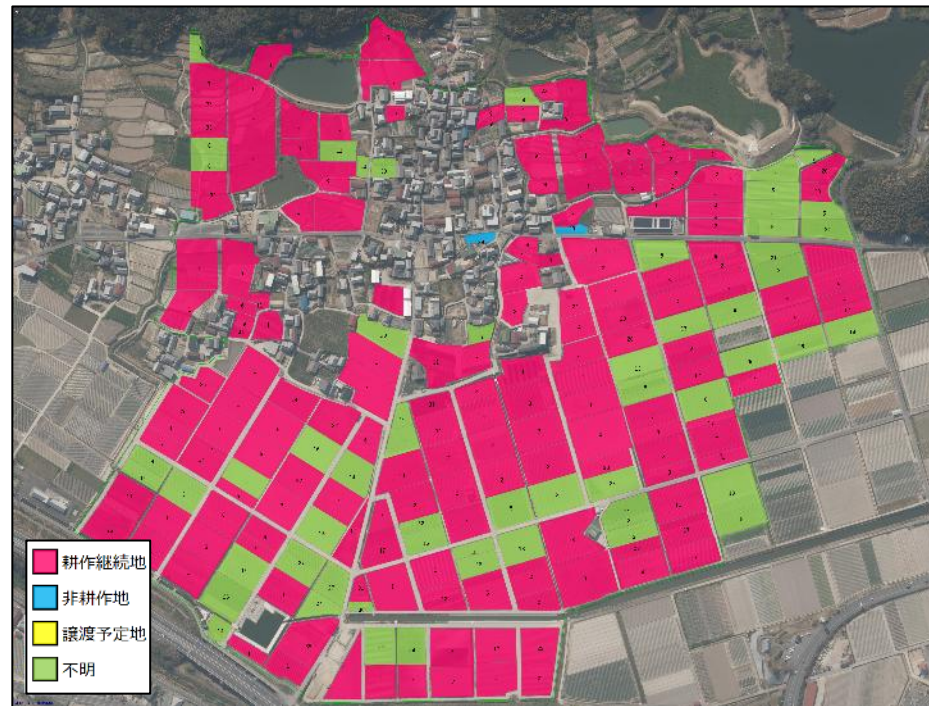
実施地域	作業受託面積
当該地域	28,851㎡
その他地域	20,077 ㎡
合計	48,928 ㎡

農業振興関連事業における目標地図の活用

○就農相談会において、就農希望地域の目標地図を活用した事例



△ 当該地域の目標地図を活用しながら相談業務を実施



△ 当該地域の目標地図

兵庫県南あわじ市では毎月1回、「市役所」「JA」「普及センター」が集まり、就農相談会を開催。

就農相談会において、

- ・ 農業用施設などの設置を計画している予定場所は適切であるか？
- ・ 作物を増産するため借り受けできそうな農地はあるか？

などの相談に対応するため、目標地図を広げて相談者と関係機関において議論。

分野別研修会の開催（令和7年7月22日）

○地域計画研修会（テーマ：地域づくり）

地域は人口減少社会と
どう向き合うべきか



ブレインストーミング！
解決策のアイデアを
ひたすらに書きなぐる！



旗揚げアンケート！
それを選んだ理由は？



我がチームでは
こんな意見が出ました！



目標

- 地域計画未策定地域への情報発信を継続し、新規地域を掘り起こし。
- 地域計画は毎年、見直しを行いブラッシュアップを図っていけるよう支援を行う。
- 地域で何かを検討する時は「目標地図」を上手く活用できるよう説明していく。
- 目標地図の活用を促すため、市単事業では目標地図を利用できる事業も創設。
- 地域での話し合いを促進させるため、分野別研修会は毎年複数回行う。
- 分野別研修会はワークショップの時間を設け、近隣地域の方との顔合わせの機会を作る。